

83年前半の成層圏エーロソルの動向

A Trend of Stratospheric Aerosol
during the First Half in 1983

高木増美、岩田晃、近藤豊

M. Takagi A. Iwata Y. Kondo

名古屋大学 空電研究所

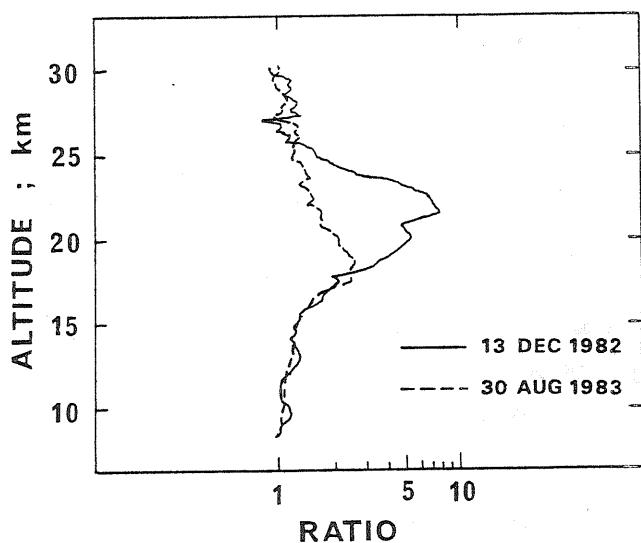
The Research Institute of Atmospherics

Nagoya University

空電研究所(豊川市)に設置されたレーザーレーダ装置は、各部の調整や、データ取得ソフトの整備がすみ、1982年の12月より、YAGの第2高調波(532nm)を用いて成層圏エーロソルの観測が定常的に行なえる様になりました。レーザの出力は約500mJ、繰返しの周波数は10PPSで運転されます。受信望遠鏡は50cmのニュートン式で垂直方向に固定されており、送信レーザ光はコリメータで拡げられてから垂直方向に打ち上げられます。受信光は半値巾1nmの干渉フィルターを通過した後、NDフィルターを通り、光電子増倍管に入り、電気信号となります。光電子増倍管は浜松ホトニクスのR1332を用い、電子カーリング装置を付けています。アナログ方式(光電流の測定)は光電流をデジタルメモリー(岩通DM901)でAD変換(8ビット)し、1shotで2kWのデータを取り込みミニコンピュータ(PDP 11/23)へデータ転送後、各ワード毎に加算積分を毎ショット行ない、観測時間(通常5分間としている)後に磁気ディスクにデータを保存しています。デジタル方式(光電子計数の測定)では、光電子増倍管の出力をディスクリミネータ(PAR 1121A)でパルス整形後2回のカウンター(PAR 1109)を用い、交互に動作させることで128回の計数を行ない(データ時間2ms~10ms)×モリーに蓄え、ミニコンピュータへデータ転送後、アナログ方式と同様に加算積分後、磁気ディスクにデータを保存します。ミニコンピュータでの加算は倍長整数(32ビット)で行うので、可成り長時間の観測を行なってもオーバフローすることはありません。

観測が出来た様になつたのは冬のため、天候にめぐまわらず、82年12月より83年2月までは月に15日程度測定出来ました。3月から5月までは1ヶ月に10日程度となり、6月以後9月までは月に数日しか測定出来ませんでした。

よく知られてる事に1982年春のエルチチヨン火山による成層圏エーロソルの増大のため、我々の観測でも、広い範囲でスキヤウタリング、レシオが増大しているのか82年12月には観測されました。右に82年12月13日の測定例を83年8月30日のものと比較して示します。図からも判る様に12月には15kmより28kmまで高い値となり、ピークは22kmで7.8となってます。これに比べて、8月にはピークは18km以下となり、値も2.4となっており、火山により生成された成層圏エーロソルが時間と共に徐々に降低していく様子が見られます。又成層圏エーロソルの高度分布は2~3日の間は良く似た形を示していますが数日たつと可なり変化する事が冬の間の観測でたしかめられました。



の研究者たる立場から、この問題を論議する。筆者は本稿で、主として、この問題を、その歴史的背景と、その現状、その問題の本質、その解決策について、論じてみたい。筆者は、この問題を、その歴史的背景と、その現状、その問題の本質、その解決策について、論じてみたい。

（一）歴史的背景

日本最初の農業統計の半夏生（1873年）によれば、耕地面積は、約1,000万ヘクタールである。このうち、耕地面積の約7割が、水田である。これは、現在の日本の耕地面積の約2倍である。しかし、この耕地のうち、約7割が、水田である。これは、現在の日本の耕地面積の約2倍である。

（二）現状

現在の日本の耕地面積は、約500万ヘクタールである。これは、約1,000万ヘクタールの約5割である。

（三）問題の本質

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（四）解決策

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（五）結論

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（六）参考文献

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（七）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（八）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（九）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（十）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（十一）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（十二）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（十三）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。

（十四）おわりに

耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。耕地の減少は、日本の農業生産の問題である。